

音楽科学習指導案

開聞町立開聞中学校 1年1組37名
指導者 教諭 今村 憲一

1 題材 「旋律の重なり」

2 題材設定の理由

(1) 社会的背景から

現代社会には多様な音楽があふれている。その中でも、中学生をはじめ若い人々に多く好まれているのは、マスメディアを中心に広まっている歌謡曲である。その特徴を分析してみると、旋律に抑揚がなくリズムが中心で、旋律を支えるハーモニーも単調なもので、およそ音楽的なものとは程遠いものが多い。

また、歌詞の内容も味わいの深いものとは言えないものが多く、ただ単語を並べただけで意味不明の歌がなぜ好まれる世の中である。そこには、ハーモニーの美しさや旋律が重なり合うことの美しさが存在するはずもなく、そのような環境で育った生徒は、旋律が響きあうことの美しさには無頓着になってしまうのが当たり前である。それだけではなく、これらのことによって、合唱能力の低下を招き、音楽学習活動の質の低下が進む、そんな懸念すらおぼえるものである。

そこで、味わいのある歌詞や旋律が重なり合う美しさに触れさせることによって、音楽のよさをしっかりと認識させることが大切だと考えた。

さらに、旋律の重なり方の効果を感じ取りながら歌唱活動や器楽活動に取り組ませることによって、合唱・合奏能力を育てることもできると考え、本題材を設定した。

また、歌唱だけでなく、簡単な副旋律の創作を行うことで、和音の流れと旋律の抑揚が一体となっていることを身近に感じ取らせ、主体的で個性の生かせる場を設定していくこともねらいである。そして、それを支援する「道具」として、コンピュータの活用を試みることにした。コンピュータを音楽表現に用いるということは、生徒がコンピュータを操作する過程で、自らの手で音楽情報を選択し、コンピュータに入力しながら、情報処理を繰り返し、新たな音楽を出力するということになる。コンピュータを使用することにより、旋律の修正に使用することに重点を置き、生徒たちの創作・表現活動に有効に利用できるよう指導していきたい。同時に記譜の仕方などの理論的なことについても、コンピュータへ入力する時点でグループごとに不十分な点を指導するようにしたい。

(2) 生徒の実態から

本学級の生徒は、元気がよく、歌うことが好きである。授業で扱った曲だけでなく、いろいろな曲を口ずさむ様子がよく見受けられる。しかし、旋律の重なりに気をつけて合唱活動をしているかという点ではまだ不十分である。

先日行われた校内合唱コンクールでも、1年生にしては素晴らしいハーモニーを作り上げていたが、その練習過程を振り返ってみると、旋律の重なりに注意してハーモニーを作るところまでは到達していなかった。

この題材を通して、旋律の重なりだけではなく、和音の流れにも注意させることによって、生徒の感性や音楽の能力をさらに高めることができると考えた。

3 指導目標

- (1) 和音や旋律が響きあう美しさに関心を持ち、混声合唱や合奏の活動に意欲的に取り組む態度を育てる。
- (2) 音楽の諸要素（リズム・休符等）や諸記号、曲のイメージなどを感じ取り、表現の方法を工夫することができるようにする。
- (3) 曲の流れや和音の関係をつかみ、自分の気持ちを歌や楽器で表現するための技能を身に付けさせる。
- (4) 和音や旋律の響かせ方による効果や響きの美しさを味わって聴くことができるようにする。

4 評価規準

- (1) 一人一人が和音と旋律の関係に関心を持ち、意欲的に活動している。(関心・意欲・態度)
- (2) 曲のイメージを感じ取り、曲に合った表現の工夫ができる。(感受・表現の工夫)
- (3) 曲の内容を理解し、曲想を生かした表現ができる。(表現の技能)
- (4) 旋律が響きあう美しさを味わって聴くことができる。(鑑賞の能力)

5 教材

曲名	拍子	調	速度	演奏形態	作詩	作曲
旅愁	4分の4	ハ長調	= 92	斉唱	犬童 球溪	オードウェイ
ドナ ドナ	2分の2	ホ短調	= 48 ~ 52	混声三部合唱	安井かずみ	S・セクンダ
地球の回る速さで	8分の6	ヘ長調	= 54 ~ 58	混声三部合唱	西 世紀	大熊 崇子

6 教材選択の観点

本題材の学習にあたり、教材として「旅愁」「ドナ ドナ」「地球の回る速さで」を取り扱うこととした。

「旅愁」は素直な旋律線、その旋律線を支える明解な形式(小三部形式)によって、和音の流れと旋律の関係をつかむのが容易である。そのことによって、対旋律を創作しやすく、旋律の重なりを感じ取るのにも適しているといえる。

「ドナドナ」は売られていく子牛と自由への憧れを歌った曲である。二分の二拍子、ホ短調、四分音符 = 4 8 ~ 5 2 の少し寂しげな曲想である。これは、混声三部合唱の形式に編曲をされており、ハーモニーの美しさとかけあいの楽しみを味わうことのできる曲である。

「地球の回る速さで」は、確かな足取りで歩いていこう、といった内容の歌詞からなっており、最後の部分ではその気持ちが劇的に歌い上げられる。八分の六拍子、ヘ長調でリズムが細かい部分もあるが、付点四分音符 = 5 4 ~ 5 8 とさほど速いテンポではなく、1年生でも歌いやすい曲である。

これらの教材にふれる中で、次のような価値があるといえる。

- ア 和音や旋律が響きあう美しさを感じることによって、混声合唱や合奏に意欲的に取り組む態度を育成することができる。
- イ 曲のイメージを感じ取りながら表現を工夫することの大切さを理解させることができる。
- ウ 曲の流れや和音の種類に応じた表現の工夫ができるようになる。
- エ 旋律が響きあう美しさを味わって鑑賞することができるようになる。

7 題材の目標

生徒の実態を踏まえ、本題材を学習させるにあたり、次のようなことに留意して指導していきたい。

- (1) 自ら創作をさせることによって、旋律とハーモニーの関係に気付かせ、響きあう美しさを感じ取らせたい。
- (2) 曲のイメージと和音の関わりに気付かせ、旋律や和音がどのように楽曲を特徴づけているのかを感じ取らせたい。
- (3) 互いの作品や発表を聴かせることによって、いろいろな響きがあることに気付かせ、表現の工夫ができるようにさせたい。
- (4) それぞれのパートの役割を認識させ、他のパートとの調和をさせることによって、合唱や合奏の美しさを感じ取らせたい。

8 題材の指導計画

(1) 指導計画 (全6時間・本時2/6)

	第1次			第2次		
	1	2 (本時)	3	4	5	6
旅 愁						
ドナ ドナ						
地球の回る速さで						
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学習曲の鑑賞 ・学習曲の雰囲気への把握 ・音程，リズムの把握 ・音楽理論とハーモニーについての学習 ・コンピュータを使用した創作活動（アルトリコーダーの副旋律の創作） ・アルトリコーダー奏への取組 			<ul style="list-style-type: none"> ・学習曲の鑑賞 ・2分の2拍子及び8分の6拍子の雰囲気への把握 ・音程，リズムの把握 ・表現の仕方と曲想の関わりについての学習 ・混声三部合唱への取組 		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲を持って取り組む。 ・正しい音程での練習。 ・意欲的に創作に臨み，工夫しているか。 			<ul style="list-style-type: none"> ・意欲を持って取り組む。 ・正しい音程での練習。 ・グループ内で協力しているか。 ・和音の流れと旋律の抑揚を感じ取り，表現を工夫する。 		

(2) 指導にあたって

- ア 言葉の美しさや詩情をつかみ，フレーズの表情を生かして表現させるようにする。
- イ 興味関心を持たせるために活動の形態（個・グループ）を工夫し主体的に取り組ませる。
- ウ パソコンを効果的に使用し，アルトリコーダーの副旋律を創作させる。

(3) 評価方法

- ア 旋律の特徴や副旋律と和音の響き合いを理解し，表現の工夫をしている。（観察法）
- イ パソコンを効果的に使用し，主体的にアルトリコーダーの副旋律を創作している。（観察法）

(4) 本時の実際（2/6）

- ア 教材名
「旅愁」（犬童球溪 作詞・オードウェイ 作曲）
- イ 本時の目標
旋律とよく響き合う，リコーダーの副旋律をつくることことができる。

ウ 展開

過程	時間	学 習 内 容	学習形態	指 導 上 の 留 意 点 (は評価)
感じる・つかむ	5分	1 旅愁を歌う。 2 本時の目標を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 旋律とよく響き合うリコーダーの副旋律を創ろう。 </div>	一 斉	<ul style="list-style-type: none"> のびのびと歌わせ、学習の雰囲気をつくらせる。 プレゼンテーションソフトを使用し、モニターを見ながら歌わせるようにする。 本時の目標と学習の流れについて知らせ、意欲を高めさせる。
追求する	15分	3 リコーダーの副旋律を鑑賞する。 <ul style="list-style-type: none"> 前時に創った副旋律を鑑賞し、学習を振り返る。 どのような工夫をすればよいか考える。 4 それぞれの意見をまとめ、グループごとに発表する。	一 斉 グループ	<ul style="list-style-type: none"> 他の生徒の作品を鑑賞し、気付いたことをメモさせる。 グループで1つ作品を選ぶ。 旅愁の旋律とリコーダーの音色は変えさせないように注意する。 どのような工夫が考えられるか、グループで話し合わせる。 他のグループの作品も、どのような工夫がなされているかということに注意させ、鑑賞させる。 協力しながら意欲的に創作のアイデアを出すことができたか。
深める	25分	5 自分の創作した旋律に修正を加える。 <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、グループ内で意見交換をしながら創作をする。 6 グループごとに発表する。	個 グループ グループ	<ul style="list-style-type: none"> 前時に自分が作った作品に修正を加えさせる。 机間指導をし、コンピュータの操作や創作のアドバイスをする。 工夫している点や改善した方がよい点など発表させる。 曲にあった旋律を創ることができたか。
広げる	5分	7 自己評価をし、本時の学習を振り返る	一 斉	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに自己評価をさせ、感想を記入させる。

エ 評価

旋律に動きをつけ、旋律とよく響き合うリコーダーの副旋律の創作ができたか。